鈴木　はい、じゃあ、早速ちょっとお伺いしたいと思います。

野瀬　はい。

鈴木　あの一、先回、ちょっと聞き逃してしまったとこをちょっと確認したいんですけど、あの一、野瀬さんの 2018 年の 12 月の 24 日のクリスマスシンポに、あの一、登壇された時って、実際行かれました？

野瀬　いや。リモートで。

鈴木　あ、リモートだったんですね、やっぱり。あ、なるほど。じゃあ、藤田さんもリモートで、野瀬さんもリモートで、で、あの一、会場に行くことが認められなかったっていうことですかね。外出許可が。

野瀬　そうですね。

鈴木　もともとそういうご予定だったんですか。その一、会場に。

野瀬　いや、もう最初からリモートの予定。

鈴木　あ、そうでしたか。院長先生とかもあれですか、リモートですか。

野瀬　いや、院長は現地にいたと思います。

鈴木　あ、そうなんですね。主治医の先生がたは？

野瀬　参加してない。

鈴木　あ、参加してない。病院関係者で参加された人って、院長先生の他にいらっしゃるんですか。

野瀬　聞いてたのは病棟の師長。

鈴木　師長さん。師長は何か言ってました？　その後、それについて。

野瀬　いや、僕は特に聞いてない。

鈴木　あ、聞いてない。あと、あのー、病院の中に、あのー、地域連携室ってあるんでしたっけ。

野瀬　はい。

鈴木　そこの人と関わりってあったんですか、退院支援に向けて。

野瀬　そこの人は、(＃＃＃＃@00:01:53)やりとりを、訪問看護であったり、訪診の先生であったり、訪問入浴とかのやりとりは主にそこがやってくれてたと思うんですけど。

鈴木　あ、そうですか。

野瀬　僕も初めてその担当者と顔を合わせたのは､退院カンファレンスの１週間前ぐらい。

鈴木　訪問看護の手配とかもしてるってことなんですか、そこの地域連携室で。

野瀬　その時はそうでした。

鈴木　え、訪問看護っていうのは、対象はつまり在宅ってことですか。地域連携室ということは。

野瀬　そうですね。

鈴木　えーっと、病院の中の患者さんと関わることってあるんですか。

野瀬　まあ、多分あると思う。

鈴木　あ、多分ある。でも、野瀬さんご自身が関わったのは、退院カンファの１週間前？

野瀬　に初めてお会いしました。

鈴木　あ、そうですか。

野瀬　存在は、まあ、(＊＊＊＊ダイダイ@00:03:07)っていう方が僕の担当をして、動いてくれているというのは、担当の看護師からは聞いてたんですけど。

鈴木　あ、そうですか。じゃあ、あのー、えーっと、具体的なこの退院を進める上で、何、えーっと、野瀬さんの退院でのこの支援において、連携室の人って何かされてたっていうことですかね。

野瀬　そうですね。

鈴木　具体的には、どん、どんなことなんですか。

野瀬　さっきも言ったように、ほう、訪問看護を探してくださったり。

鈴木　あ、野瀬さんのってことですか。

野瀬　ええ。

鈴木　あ、なるほど、なるほど。

(無言)

鈴木　MSW なんですかね、あのー、いわゆる医療ソーシャルワーカーっていう人がそこにいるってことなんですかね。

野瀬　そういった人、いはると思うんですけど、僕の担当の人は、副看護師長っていう、いわれる人で、多分普通の看護師。

鈴木　あ、そうですか。地域連携室の、その副看護師長の方って、結構積極的にやってくれたかなって思われますか。

野瀬　僕も会ったのが、もう退院の 1 週間前なんで、担当の方からこう言われてますっていうのは、その看護師通してとかは聞いてはいたんですけど。結構せかされたイメージ。

鈴木　じゃあ、あれですかね。あのー、シンポジウムが終わって、なんか具体的に退院計画がこう動き始めて、その時に、なんか連携室の人も動いてたって感じなんですかね。

野瀬　恐らく。

（無言）

鈴木　で、あの一、野瀬さんたちが、あの一、外泊のお願いをこう、さん、再三こう、行って、なんか医師からこう、なんか文書が来たのって、あれ、シンポジウムの後でしたっけ。

野瀬　後です。

鈴木　ですよね。もう、すぐですか。あの一、何カ月か後、後くらいですか。

野瀬　外出とか、外泊依頼出したのが、多分4月とか5月の話で、その辺で、あの文書が来たと。

鈴木　それはあれですよね。あの一、いわゆる介護者の研修でそれをお願いしてたっていうことですよね。

野瀬　そうですね。あと、まあ、家の内覧とか。

鈴木　で、あの一、退院カンファレンスが、あの一、1時間ほどだったっていう話があったと思うんですけど、話の内容としては何を話されてた感じなんですか。

野瀬　病院側から僕の状態を、体の状態を伝えはってる。あとは、まあ、僕に関わる予定の事業所がほぼ来てたんで、まあ、そういったところから人が来はったりとか、まあ、僕の思いを言ったりと。

鈴木　ということは、あの一、JCの人も来てるし、あの一、他の事業所の人も来ていて。

野瀬　そうそう。

鈴木　でも、雰囲気としてはあんまり良くなかったっておっしゃってましたよね。

野瀬　そうですね。20〜30人、まあ、円形にいて、真ん中に僕が置かれている。あんま気持ち良くはなかったです。

鈴木　本当だったら、どんな形だったら良かったんですかね。

野瀬　みんなと同じように僕も並ばせてくれはったら。なんで、あえて真ん中に置いたのか

がよく分からないんです。

鈴木　あー、そういう、ねえ、位置、位置関係ってことですよね。

野瀬　あとは、まあ、僕が病院自体とそんな関係が良くなかったから。そんなに、病院がちょっと(＊＊＊＊ミナオシ@00:08:29)たいわけでもなかったから。関係が良好で、ちゃんと位置とかをセッティングしてくれはったら、多分(＃＃＃＃@00:08:42)出れたと思うんですけど。

鈴木　関係が悪くなったっていうのはあれですか、やっぱり外出の禁止辺りぐらいからですか。

野瀬　いや、もう、その食事制限から。

鈴木　あ、食事制限。

野瀬　だいぶ関係を損なわれてた。

鈴木　でも、まあ、それまでもいろいろこう、不満な部分とかってありましたもんね。でも、まあ、その食事制限は、いま、いわばクライマックスっていうか、もうかなり。

野瀬　そう。

鈴木　来る、来ましたもんね。で、あと、あのー、なんか昨日、あのー、(＊＊＊＊ディービーアイ@00:09:32)のき、定例、あ、昨日、一昨日か。定例会議で、あのー、家電選びの時にMessengerを使って、なんかやりとりしたっていうのが、藤田さんのやつでやってましたけど、それ、野瀬さんの時もやられてたんですか。

野瀬　僕は基本、自分で、Amazonで欲しいものを。

鈴木　あ、そうですか。

野瀬　リストに自分の欲しいのを入れていって、後からMessengerでそのリストを見せて、他にあったほうがいいもんありますかねみたいなのをJCのみんなに聞いて。

鈴木　Messengerって結構、べん、便利なんですか。ど、他のツールよりもMessengerがや

っぱり役に、た、立つっていうか。

野瀬　どうなんですかね。僕は LINE のほうが好きですけど。結構仕事関係が来ると、Messenger が多い。多分皆さん使いやすいから。

鈴木　あ、そうですか。まあ、一応情報をみんなで共有して、意見が言えるような感じなんですよね。それで、なんか、あ、こういうものがあるんじゃないかとか、これにしたらどうかとか、そういうこともあったりとか？

野瀬　そうですね。

鈴木　やっぱりこう、1 人で選ぶっていうよりも、なんかこう、皆さんの意見もらったほうがあれですか、安心ですか。

野瀬　僕自体はその地域での経験が皆無なんで、意見をもらわないと。何を買ったらいいかとかも全然分からない状態なんで。皆さん買うのがいいですよ。ほぼ完璧に。（＃＃＃＃＠00:11:23）。

鈴木　なるほどね。しかも、なんかもう、自立生活を経験されている皆さんなので、経験豊富だっていう。

野瀬　そう。

鈴木　あと、当事者の人っていうこともあります？　当事者目線で・・・。

野瀬　そうですね。

鈴木　こういうのがいいんじゃないかとか。例えば家電なんかでいうと、健常者よりも、要するに当事者の目線から見ると、こういうのがいいとかっていうのはあるんですか、なんか。

野瀬　僕の場合は全介助なんで、家電を介助者が使うだけなんで、そんな変わらないと思うんですけど。

鈴木　あ、なるほどね。

（無言）

鈴木　あと、なんか座談会の時に、なんかミシガンに乗りたいって思ってたっていう話があったんですけど、ミシガンって、琵琶、琵琶湖の遊覧船のことですか。

野瀬　そうです。

鈴木　あれ、もう乗ったんですか。

野瀬　いや、まだ乗れてない。

鈴木　それはなんかあれなんですか、特別な思いがあったんですか。

野瀬　19か20歳ぐらいの時に、前、言ったか覚えてないですけど、僕とオオヤブ君と、もう二人友達がやってるボランティアサークルでのボランティアさんたちと、一緒にいて、そうしたらミシガンに乗って、乗ったっていう話が、JC が支援に来ている時に、また皆さんで乗りたいですねみたいな話をしてて、退院したらぜひみんなで行きましょうって、多分言わはったのがきっかけで、乗りたいねってなってた話だと思う。

鈴木　なるほどね。あ、じゃあ、その時、JCの人もいらっしゃったってことなんですか。ボランティアサークルで出掛けた時。

野瀬　はいなかったですけど、そういう思い出を話す時に、こういうのが楽しかったですって。ミシガンが楽しかったですっていう話をしたんで、みんなでまた乗りましょうって。

鈴木　あ、なるほど、なるほど。

野瀬　提案してくれはったと。

鈴木　やっぱり、この19歳の時のこの経験って、やっぱそれだけ野瀬さんにとって大きかったっていうことなんですかね。

野瀬　そうですね。

鈴木　頻繁に行かれてたんですか、その先輩の家って。

野瀬　いや、家は、先輩の家は年に2回ぐらいは行ってたと思うんですけど、外出自体は、

制限かかる前は、月 1、2 はしてた。

鈴木　なるほどね。じゃあ、今度は病院の時じゃなくて、退院してからそれを乗るっていうことですもんね。分かりました。で、あのー、今、あのー、藤田さんの退院支援とかやられてるじゃないですか、定着支援を。野瀬さんの頃って、要するに 2000、えーっと、19 年の 7 月に退院されてから、定着支援とかって受けられました？

野瀬　いや、特に受けてはないです。

鈴木　あ、そうですか。それはどう、どう思います？　あ、あったほうが良かったのか。

野瀬　まあ、でも、困ったときはすぐ相談には、JC の人が乗ってくれてはったんで、まあ、僕的には問題はなかったかなと。

（無言）

鈴木　じゃあ、これもやっぱり、じゃあ、人によるのかなっていう感じなんですかね。

野瀬　そうですね。

鈴木　今の場合だったら、藤田さんの支援されてますけど、やっぱり必要かなっていうふうに思われるってことですか。

野瀬　そうですね。本人が希望されているってこともあるんで。あとは、やっぱ訪問入浴ってことも、トラブルが続いてはったりもしてた時期があったんで、まあ、そこをなんか当事者が入って、かつ、同じ業者を使ってるっていうのもあったんで、何かいいアドバイスができるんじゃないかなと思いながら、支援には入ってました。

鈴木　なるほど、なるほど。じゃあ、野瀬さんの場合は、と、とりわけなんか大きなトラブルに見舞われることなくいったってことも大きかったってことなんですかね。あと、退院されてから、あのー、お父さまとの、何ていうのか、関係とか家族との関係で、なんか変化があったとかはありますか。

野瀬　そんな大きくも、めっちゃ仲良くなったとか、悪化したとかは全然ないんですけど、病院より話しやすくはなりました。人目を気にしてコミュニケーションをしなくてもいいんで。

鈴木　訪問の回数って増えたりとかされたんですか。

野瀬　いや、むしろ減ったんじゃないかな。

鈴木　あ、そうですか。

野瀬　病院の時、まあ、病院の時は週 1 ぐらいで来てはったんですけど、退院してからは多くて 2 週間に 1 回で、から、1 カ月に 1 回ぐらいでっていう感じですね。

鈴木　そうですか。病院の場合、週 1 回だったっていうのは何か理由があったんですか。

野瀬　それは看護婦さんとかじゃやってもらへんこともあったりはしたんで、それをやりに来てもらったり。あとはお父さん自身、病院に預けていることへの不安みたいなのはあったみたいなんで。ちょっと前に、あの一、施設の職員が 10 人、十何人殺害されたっていう事件、もうすぐいろんな記事で上がると思うんですけど、そういうのもあって、心配はしてくれてたみたい。

鈴木　あ、そうですか。あの一、相模原事件は今年で 5 年目ですもんね。

野瀬　そうそう。

鈴木　ちょうど 2016 年ですかね。その辺りぐらいからやっぱりお父さまも心配されて。

野瀬　そうです。

鈴木　逆にいうと、やっぱり、何ていうんですかね、お父さま自身も病院のスタッフの方に、まあ、完全にちょっと信頼が置けてなかったっていうことなんですかね。

野瀬　そう。

鈴木　あの一、看護師さんがやってくれないことをやる、やって、やりに来るっていうのは、例えば、あの一、外出とかですか。

野瀬　外出とか、まあ、部屋の片付けであったりとか。

鈴木　あ、そうですか。

野瀬　あとは、まあ、新しいパソコンとかを買って、セッティングであったりとか。あと、まあ、食べれるときは持ち込んでもらって、好きなものを食べたり、飲んだりっていう感じです。

鈴木　なるほど。逆にいうと、今は回数が減ったっていうことは、まあ、その一、今の体制に安心感を持ってらっしゃる？

野瀬　恐らく。

鈴木　その一、地域の暮らしを見て、お父さまはなんかおっしゃってます？

野瀬　うーん、特に聞いてはないですけど、うた、宇多野にいた頃よりは、安心してくれてるのかなっていう感じはしますけど。

鈴木　ご兄弟はなんかおっしゃってますか。

野瀬　いや、何も聞いてはない。

鈴木　あ、そうですか。訪問することもあるんですか。

野瀬　この家来てから、1、2 回。兄弟全員は 1、2 回ですかね。

鈴木　あ、そうですか。

野瀬　弟は割と来るんですけど。お父さんに付いてくるんで。

鈴木　あ、そうですか。じゃあ、ご兄弟の皆さんは、よ、喜んでるというか。

野瀬　恐らく。

鈴木　あ、そうですか。じゃあ、退院することになんか不安を述べてたとか、そういうことはない、なかった？

野瀬　は特にないです。

鈴木　あと、野瀬さん、こちらでパソコンのセッティングするときって、なんか特別ななんか配置とか、なんかあるんですか。その一、セッティングで、こ、こちらの家でやるときって。

野瀬　いや、まあ、(＃＃＃＃@00:22:19)トラックボールを置いてもらったら、もうできるんで。

鈴木　あ、すぐにできると。その辺は病院と変わらないですか。そのセッティングって。

野瀬　変わらないです。

鈴木　で、あと、野瀬さんの、あの一、1 週間のスケジュールってどんな感じになってるのかなと思ってたんですけど、あの一、JC に行かれる日って、何曜日と何曜日とかって決まってらっしゃるんですか。

野瀬　基本、火曜日と水曜日の昼からが、僕の予定次第で行ったり行かなかったり。火曜日はほぼ行きます。

鈴木　朝からって感じですか。

野瀬　火曜日は朝から。朝の 10 時から 16 時ぐらいまでは。

鈴木　で、病院に行かれる日って、もう 1 週間決めてらっしゃるんですか。

野瀬　病院はもう行ってないですね。

鈴木　あ、今はもう行ってらっしゃらない？

野瀬　水曜日に訪診の先生が往診に来てくれはる。

鈴木　タナカ先生ですか。

野瀬　そうそう。

鈴木　訪問看護って何曜日ですか。

野瀬　訪問看護は月水金です。

鈴木　何時から何時までですか。

野瀬　大抵看護師さんたちのイレギュラーとかがなければ、10 時から 11 時ぐらい。

鈴木　その時、吸引とかされるっていうことですか。

野瀬　まあ、吸引であったり、あとは、まあ、便が出にくかったりとかで、その辺の処置してもらったり。尿の管を、尿の管が詰まると僕結構危ないんで、それを洗浄してもらったり。あとは爪切ってもらったり、耳掃除してくれたり。

鈴木　あ、なるほど、なるほど。訪問看護のこの回数は、てき、てき、適切な回数だと思いますか。

野瀬　そうですね。

鈴木　で、えーっと、入浴は月曜日と金曜日ですもんね。あと、リハビリは週？

野瀬　週 3 で水金ですね。水曜日が 2 回入ってる。

鈴木　あ、そうですか。何時から何時までですか。

野瀬　水曜日が 9 時から大体 9 時半、9 時 40 分とかぐらいが、理学療法の方が来てくださって、もう一回が、12 時から 12 時 40 分ぐらいが、作業療法士の先生が来てくださって、金曜日が 12 時から 12 時 40 分ぐらいで、作業療法の先生が来てくれはる感じです。

鈴木　あ、そうですか。あのー、作業療法ってどんなことをされるんですか。

野瀬　僕もあんま、その理学療法と作業療法の違いがよく分かってない。

鈴木　あ、そうですね。

野瀬　どっちも手足の関節、運動であったり、よく、呼吸機能が弱いので、呼吸リハをしてくださったり、あとは作業療法の先生は、作業関係のことを、ゲームの操作がもっとこうで

きるようにしたいとかいう相談をしたら、一緒に考えてくださったりします。

鈴木　ゲームの、あ、あの口でこう動かすときの？

野瀬　そう。

鈴木　この内容って、病棟にいた時のリハビリと違いますか。

野瀬　病院の時は作業療法を受けてなくて、で、まあ、他の人がやってるのを見てたんで、主に作業するリハビリなんやろうなぐらいしか考えてなかったんですけど、内容的には全然違うという。

鈴木　どっちがいいかつったら、やっぱり。

野瀬　こっちのほうが。

鈴木　なんか前おっしゃってたのは、目的意識がこちらにはあるっていう。

野瀬　そうです。訪問のほうが量、量よりもちゃんと質を取ってるような感じがして、病院やったらなんか量を取ってはる気がしてっていう感じです。

鈴木　なるほどね。質というのは、あのー、やっぱり地域での生活する上でのそういう質ということなんですかね。

野瀬　ちゃんと一人一人にこう、ちゃんと聞いて、最大限にできるように考えてくださってるんで。

鈴木　あと、あのー、言語聴覚士の方のリハビリとかってあるんですか、まだ。

野瀬　いや、去年ぐらいまでは受けてたんですけど、今はもう受けてないです。

鈴木　もう、じゃあ、かなり回復されて。

野瀬　そうですね。僕はもう、退院した時に、しょく、取りあえず食事を食べたいというのを訪問看護でも依頼してたんで、それはもう取りあえず食事の(＊＊＊＊クミ@00:29:03)は見てもらってたんで。今はもう普通に食べられるようになったんで、去年から(＊＊＊＊

チュウシニナリマシタ＠00:29:09)。

鈴木　それでも、時々検査とかって行かれるんですか。

野瀬　いや、今のとこ予定はない。

鈴木　あ、じゃあ、もう、完全にもう、安心して食べられるということなんですね。完全に回復するまで、やっぱり時間かかりましたか。

野瀬　いや、多分前回ぐらいに話したとおり、もう普通に(＊＊＊＊ギョウザトカトライシテ＠00:29:39)、割とすぐ食べてたんで。

鈴木　なるほど。ブランクは結構長かったけれども、やっぱりその中でもちょっと食べたりとかして。

野瀬　そうですね。

鈴木　練習もしていたっていうことがやっぱり大きかったんですよね。

(無言)

鈴木　他にもそういう方っていらっしゃるんですかね、野瀬さんみたいに食べることが、機会がなかったっていう。

野瀬　多分結構いはる、いはると思います。

鈴木　結構いるんですか。そういう話を、き、聞いたことがあるってことですか。

野瀬　そうですね。同部屋の人でも、その人、僕の1個上の先輩なんですけど、食道分離術っていう手術を受けてはるけど、それしたら絶対誤嚥しないっていう手術なんですけど、でも、なぜか胃ろうを開けさせられてはって、注入してはったんで、ほんまに食事介助が、手間を省きたいんやなっていう僕は印象を受けました。

鈴木　本当ですか。

野瀬　家族がどういう説明を受けられたかはもちろん知らないですけど。

鈴木　それもすごい話ですね。

野瀬　そうですね。

鈴木　でも、その食道分離術っていう手術をされてるってことは、もう野瀬さんはご存じで、本人かなんか話されてたんですか、そのことを。

野瀬　結構それ、会話とかを盗み聞きしたわけじゃないですけど、聞こえてきて、だから声出えへんのかと思って。

鈴木　なるほど。ちょっとその辺りは本当、ちゃんと調べなきゃいけないですね。

野瀬　そうですね。

鈴木　なるほどね。あの一、今お食事、自分でこう、メニューって作られてると思うんですけど、あと、間食も食べたりとかされてると思うんですけど、あの一、なんかそういう、栄養面での偏りとかって、ご心配とかってありますか。

野瀬　まあ、その辺はたまに訪問看護の人に意見を聞きながら、調整するようにはしてます。

鈴木　それで十分だろうと。

野瀬　はい。

鈴木　こちらのお家の、なんか、トイレとかって使う機会ないですよね。

野瀬　僕はないです。

鈴木　ないですよね。その一、排尿とか排便とかで、それは特に地域と施設は、かわ、あ、病院でも変わらないっていう感じですか。

野瀬　変わらずです。

鈴木　それは変わらずで。で、あの一、主治医さんがタナカ医師ですよね？

野瀬　はい。

鈴木　これ、退院されてからですか。

野瀬　そうですね。

鈴木　えーっと、紹介は、えーっと、JCIL ですかね。あのー、そのタナカ医師と、今まで、そのー、宇多野病院の医師って、どう、どういうところが違いがあると思います？

野瀬　やっぱり食事面。僕の希望に沿うようにタナカ先生はしてくださったんで。検査とかもセッティングしていただいて。病院やと、駄目ですねってあれやったんで。そこが全然違うかな。

鈴木　かん、えーっと、当事者の希望をかなりこう、聞いてくださるってことですね。

野瀬　緊急時の対応が病院よりも逆に早いような。夜中熱出してしまったりしても、呼んだら早く、30〜40 分で来てくれはるけど、病院やと、多分 1 時間とか待つこともあるから。

鈴木　あ、熱を出したときでも、1 時間待つことがあったんですか。

野瀬　ドクターが来るまで。

鈴木　普段、ドクターって病院の中に。

野瀬　夜中とかは絶対 2 人はいる。でも、僕の主治医ではないんで、体の説明を看護師が一から説明してるんで、余計時間がかかると思うんですけど。

鈴木　なるほど。

野瀬　在宅だと、タナカ先生に連絡するしか方法がないんで、最初から全部知ってくれてはる先生なので、すぐに適切な対処ができるというか。

鈴木　夜中って、かなり夜遅くってことですよね。

野瀬　そうですね。12 時とかにも電話かけても普通に出てくれはるんで。で、まあ、電話で指示を出してくれはってる。

鈴木　なんか、よく、あのー、病院のほうが、あのー、なんか命が守られるとかいうふうにいわれたりするんですけど、今の話聞くと、逆っていうか。

野瀬　そう。僕はそんなことないと思う。

（無言）

鈴木　で、訪問看護師はヒビキさんですよね？

野瀬　ええ。

鈴木　そのヒビキさんの看護師と、宇多野病院の看護師って何が違いますか。

野瀬　繰り返しにはなるかもしれないですけど、タナカ先生と似たような感じで、やっぱ僕の意思を尊重してくれはるんで、宇多野とかやと、いや、それは危険ですみたいな、リスクがとか言わはるけど、訪問看護婦さんの場合やと、このリスクをどうやって越えようかみたいなことを考えてくれはるんで、リスクがあるからやめようじゃなくて、リスクがあったら、そのリスクをどうやって越えるかを考えてくれはる感じなの。そこはありがたいかなと。

鈴木　なるほどね。今、地域で暮らしされてて、医療面で不安なことってございますか。

野瀬　医療面は、入院してる時は全然こういう光景が想像できなかったんで、（＊＊＊＊イリョウテキテアテ＠00:37:40）とか大丈夫かなとは思ったんですけど、退院してみて、しばらく生活してみると、逆にこっちのほうが緊急対応とかが早かったりするんで、逆に安心感があります。訪問看護の人も 24 時間対応で、呼んだら、早かったら 30 分とかで来てくれはるので。

鈴木　熱を出されたときっていうのは、大体医師と看護師両方来られるってことなんですね。緊急で呼ぶときって、その熱以外に何かありますか。

野瀬　尿のトラブルがあるんで、管が詰まっちゃったりすると、すぐ呼ばないと血圧が上がっちゃう。そういうときに相談したり、あとは、けがしたりしたときとか、呼ぶように対応してくれる。

鈴木　病院の中でも尿の管が詰まることって？

野瀬　ありました。

鈴木　その時、看護師呼んで、やっぱ時間かかるような感じですか。

野瀬　泌尿器の担当がいないんで、病院に。ひどいときは2、3時間待たされたりして、医者がいるんで、一応。応急処置的なのはできるんで、そんな大事には至らないんですけど。だいぶしんどい状況になったりはします。

鈴木　そうですか。それを考えると、確かに本当に、やっぱり地域よりも病院のほうが、なんかやっぱり命の危険が。

野瀬　そうですね。多いような気が。

鈴木　ですよね。

野瀬　ほんまは、家とかよりか設備が整ってるんで、できるはずなんですけどね。本気を出せば病院も。

鈴木　あ、どこですか。

野瀬　病院も本気を出せば。

鈴木　あ、本気を出せば。

野瀬　すぐに処置とかは受けれるはずなんですけど。

鈴木　なるほどね。今でも野瀬さんは入院されることってあるんですか、どちらかの病院とかで。

野瀬　いや、ないですね。1回、でも、退院してから、その尿の管が詰まってしまって、ドクターの判断ミスとかもあったりしちゃって、脳出血が起こってしまって、緊急搬送されたことはあるんですけど。

鈴木　あ、そうですか。脳出血？

野瀬　脳、脳内出血。

鈴木　脳内出血。え、退院された後ですか。

野瀬　退院された、退院した後。10 月ぐらいかな。

鈴木　10 月。きょ、去年ですよね？

野瀬　一昨年かな。

鈴木　一昨年。退院してから、じゃあ、え、3 カ月。

野瀬　3、4 カ月。

鈴木　ですよね。じゃあ、その時は心配だったんじゃないですか、すごく。

野瀬　そうですね。というか、まあ、頭が痛過ぎて。今、脳内出血を起こしてしまって、ほぼ記憶がほんま 2、3 週間飛ぶような形に。

鈴木　あ、そうですか。

野瀬　気が付いたら病院にいた感じです。

鈴木　あ、そうですか。でも、退院してから 3、4 カ月でそれを経験されて、それ、それで、なんかどう、どう思われました？　その。

野瀬　もちろんそういったことがないのは、ないほうがいいのは確かなんですけど、僕的には、まあ、勉強になったかなと思いました。

鈴木　あ、勉強になった。まあ、それだけ優秀な地域の診療所の医師でも。

野瀬　そう。その後、カンファレンスとかで、もしこういったときはどうするかみたいな、対処法を教えてくださったり、ルー、ルールじゃないけどを変更してくれはったりした。そういう場合は、管を替えたら、(＊＊＊＊ソウナラナイ@00:42:44)話なんですけど、管も医療行為なんで、医者しか替えれないんですけど、緊急時ってことで、しん、あのー、心臓マッサージと同じ扱いで、ヘルパーにも替えれるように指示書を書いてくださったり、訪問看

護は、それはできないんで、万が一は訪問看護でもしていいっていうふうに指示書を書いてくれはったんで、だから、まあ、次、同じことが起きても大丈夫かなと。

鈴木　なるほどね。違法性の阻却のあれですか。

野瀬　そう。

鈴木　やっぱ、まあ、そういうことがあっても、今後こういうことがないように対処法を考えてくださったりとか。まあ、それで、まあ、何ていうんですかね、そういうことがあったけれども、あのー、信頼してるっていうことなんですかね。

野瀬　あとは、まあ、もう一回入院することで、あらためて地域生活、ありがたさとか、食事食べれるありがたさは再確認できたんで。あとは、まあ、(＃＃＃＃@00:43:58)食べれんくなって、また病院生活になったんで、その時は宇多野じゃなかったんですけど。

鈴木　ある意味、まあ、また戻ってきてしまったかっていう。

野瀬　そうですね。もちろん、ないには超したことないんですけど、勉強になったから。

鈴木　じゃあ、まあ、一応、まあ、自分で気付くこともできるっていうことなんですか、その尿の。

野瀬　きづ、まあ、頭痛が出るんで、気付くことはできるんですけど。気付いた頃にはなかなか手遅れというか。遅いぐらいの感じ。

鈴木　あ、なるほど。じゃあ、その辺りは、まあ、ヘルパーさんにもちょっと見て、見てもらって。

野瀬　そうです。

鈴木　ということですよね。その後はまあ、あのー、そういったトラブルはなく？

野瀬　今のとこなく。まあ、詰まらんように先生も考えてくれはったりして、今のとこ落ち着いてはいる。

鈴木　やっぱり、まあ、全く、まあ、問題が、おこ、起こらないっていうことがまずあり得

ないですもんね。

野瀬　そうですね。

鈴木　こういうことって当然起こってしまうし。

野瀬　そうなんです。そのまま宇多野にいたら、多分起きなかったとは思うんですけど。

鈴木　宇多野に、いた、いたら起きなかっただろうと思います？

野瀬　まあ、すぐに交換に来た、多分。宇多野やと。泌尿器の先生(＃＃＃＃@00:45:45)少なくとも1、2時間は待たなあかんから、あれやけど。

鈴木　でも、そこは、管はすぐ交換してくれてたろうと思いますか。

野瀬　恐らく、まあ、詰まってたんで、替えてくれたんじゃないかなと。

鈴木　あー、なるほど、なるほど。でも、まあ、地域の場合は、まあ、そこの部分はちょっとやっぱり。

野瀬　まあ、先生自体も慣れてなかったと思うんで。

鈴木　なるほどね。

野瀬　多分様子見てもいけるやろうと思われたと思うんですけど。

鈴木　なるほど。なるほど。もしかしたら、そういうなんかが、情報って、病院が知ってる情報で、なんかすごい重要な情報って、もしかしたらあるのかもしれないですよね。

野瀬　そうですね。

鈴木　本来ならそういったことが、あのー、在宅の医師にもこう、伝わっていれば、もしかしたらこういうことが起こんなかったかもしれないですかね。

野瀬　そう。でも、まあまあの重要事項なんで、ある程度は聞いてはったと思うんですけど、担当の側がちゃんと伝達してない可能性が無きにもあらずです。

鈴木　なるほどね。それは本当に病院から退院するときの、とても大事な支援ですよね。

野瀬　そう。

鈴木　どうやって情報をこう、伝えるのかって。口で聞いてだけでも、なんかやっぱりちょっと分かんなかったりとかもするのかもしれないですよね。

野瀬　そうですね。

鈴木　でも、研修のときに、そんな管がね、濁るみたいなそんなことは起こらないし、難しいですね、これ。まあ、でも、でも、今回本当にそうやって対処できて、本当良かったなと思いますけど、本当に、でも、一大事になってたら大変だったんで、なんかこういう情報って、どうやったら伝達できるのかって、考えないといけないですね。なるほどね。

野瀬　その時、もう一個危なかったのが、実は 1 回宇多野のほうに搬送されて、その時はまだ意識があったんで。まあ、なぜか、その時、意識が鮮明やったんで、もともと意識レベルが低下して搬送されたんですけど、宇多野に着いたら何でか鮮明になっていて、先生も採血とかだけして、値が悪くなかったから、帰りたかったら（＊＊＊＊ジョウキョウ@00:48:46）で帰ってもいいよって言った。で、JC からとかの助言とかを一応受けて、万が一があるかもしれんから、1 泊ぐらいしたほうがいいって言われて、で、まあ、入院しようと思って、入院させてもらった晩には、もう意識がなかったです。

鈴木　あ、そうですか。

野瀬　だから、まあ、帰らんで良かったなと。で、まあ、せん、宇多野で多分、僕の意識自体はあったみたいなんですけど、記憶が飛んでるんですけど、次の日に主治医が来てくれはって、精密検査とかして、宇多野の頃の主治医が来はって。そうしたら、脳出血が見つかって、市立病院のほうに転院、させ、させられて、宇多野で多分脳外の先生がその時間帯にいなかったかなんかで、また緊急搬送されて。で、まあ、市立病院で 2 カ月ぐらい入院してたんです。

鈴木　そうですか。え、それ、いつ頃ですか。

野瀬　10 月。僕、入院して 12 月半ば退院した感じです。

鈴木　あ、そうですか。それはさっきの、えーっと、さっきの泌尿器系のトラブルはたい・・・。

野瀬　一緒。

鈴木　同じ時ですか。

野瀬　その管が詰まったことによって、その尿の毒素が脳のほうに行ってしまって、それで多分、まあ、高血圧になって、血管が切れてって感じ。

鈴木　あ、そうですか。じゃあ、いったん宇多野に行ったってことなんですね。

野瀬　タナカ先生の判断で、もともと宇多野にいたっていうことで。

鈴木　なるほど。で、その後市立病院にっていうことですね。

野瀬　宇多野では診れないっていうか。

鈴木　なるほどね。

野瀬　もともとの宇多野との約束では、緊急搬送されても、診れないって言われてたんで。

鈴木　え？どういうことですか、それ。

野瀬　どういうことか僕もよく分からないんですけど。

鈴木　緊急搬送された・・・。

野瀬　そういう体制ではないって言われて。

鈴木　そういう体制ではない。

野瀬　救急も一応宇多野は扱ってるから、いけるやろうとは思ってたんですけど、主治医自身が分かってたんですけど、緊急やとしても。

鈴木　野瀬さんだからということじゃなくて、緊急の対応はできないからっていう。

野瀬　いや、僕の対応はできないみたいな感じ。

鈴木　えーっと、あ。

野瀬　多分縁を切りたかったのか何なのか。

鈴木　え、そういう意味で？

野瀬　いや、分かんないですけど。

鈴木　フフフ。えー。でも、それもなんか、そんなこと、でも、そんな権限ないですよね、病院に。

野瀬　病院にはないと思う。でも、そういった、なんか宇多野に運ばれたから、何でやろうとは思ったんですけど。ただ、僕もしんどかったんで、なんでここに連れてきたんですかとは言う元気ももちろんないし。

鈴木　そうですよね。

野瀬　結果、市立病院に転院することになって、(＊＊＊＊コンクテ@00:52:11)良かったんじゃないかと思いながら。で、まあ、その後、タナカ先生と話して、僕のは絶対宇多野を指定しないでほしいというふうにお願いして。

鈴木　あ、そうですか。

野瀬　今は市立病院になんかあったら運ばれることにはなってる。

鈴木　あ、そうですか。なるほどね。じゃあ、その市立病院のほうは、まあ、安心されてるっていうことなんですね。

野瀬　そうですね。医師がそろって診れる。

鈴木　あ、そうですか。

野瀬　泌尿器科もいはるし。

鈴木　あ、そうですか。

野瀬　脳外の先生もいはるから。

鈴木　え、市立病院って、ちなみに名前はどう、なん、何病院ですか。

野瀬　京都市立病院。

鈴木　あー、京都市立病院ですね。あー、なるほど。

野瀬　結構ドクターヘリとかも来るところなんで。緊急には慣れてはる。

鈴木　あ、そうですか。

野瀬　宇多野よりは。

（無言）

鈴木　でも、まあ、いったんこう、入院されて、あらためて地域生活のありがたさみたいなのも実感して、まあ、そこの部分は、ちょ、まあ、これからこう、気に掛けてケアしていこうっていう、この気持ちになったってことですよね。で、あと、あのー、前にちょっとおっしゃっていた、あのー、ヘルパーさんって、3 号研修を受けてない方がいらっしゃるっていう話されてたと思うんですけど、30 人中、あのー、ヘルパーさん、30 人いらっしゃるっておっしゃってたと思うんですけど、どのぐらいの割合なんですか、その受けてる人と受けてない人って。

野瀬　厳密に数えてるわけではない。

鈴木　大体っていうか。

野瀬　一概には言えないですけど、半分ぐらいは受けてるんじゃないですか。

鈴木　それ、野瀬さんとしては、やっぱり全員受けたほうがいいかなと思います？

野瀬　受けたほう、まちまち、その問題提起とかされたときに、多分大問題になりかねないんで、したほうがいいと思います。

鈴木　でも、その一、要するに、ほ、あの一、教える側の訪看さんの予定とかも合わないで、なかなかそれができない？

野瀬　事業所側の予定が多分、ヘルパー(＃＃＃＃@00:55:07)は、夜勤専属の人とかもいはるんで、その人を昼間に連れてこさせなきゃならん。どうしたらいいかとかも、多分事業所で調整しなあかんと思う。

鈴木　逆にいうと、この3研修をやって、やるところが、事業所が少ないってことなんですか。

野瀬　いや、できるところとしか僕は契約してないから、なんで。そんなことはないと思うんですけど。時間帯とかが合いにくいかなとは思ってる。

鈴木　あー、なるほどね。でも、実際は、その一、3号研修を受けてない人、ヘルパーさんの吸引はされたことはないってことなんですもんね。

野瀬　(＊＊＊＊ヘヤ@00:56:08)掃除はしてはるけど、僕には、した、僕は吸引器をもちろんしはるんですけど、だから、よそでしてるから、任せられるよっていう事業所の判断。

鈴木　なるほど。でも、野瀬さんご自身にやったことはない？

野瀬　ない人が多いですね。

鈴木　ない人が多い。でも、やったことのある人もいる？

野瀬　そうですね。

鈴木　研修を受けてない人で。あ、そうですか。それは不安ではないですか。

野瀬　やったことあるっていうのを一応聞いてたり、ベテランさんっていう人はそんな不安ではないです。

鈴木　あー、そうですか。やっぱり、まあ、ベテランっていうか経験豊富な人だったら、そこは許容範囲かなっていう感じですか。

野瀬　そうです。なんかあったときのためにやっといたほうがいいと思うんですけど、研修は。

鈴木　あー、なるほどね。でも、一人一人やっぱり体の違いとかもありますもんね。やり方とか。

野瀬　そうですね、多分。

鈴木　あと、前おっしゃってた、あのー、えーっと、女性の介助者の方がいらっしゃるということで、それをできれば男性に、のほうがいいっておっしゃってたじゃないですか。そういうふうに変えることって可能なんですか。

野瀬　全然できると思います。

鈴木　あ、そうですか。

野瀬　今はたまたま入ってないんであれですけど。

鈴木　じゃあ、言えば、まあ、動いてくれるっていう。で、あと、あのー、四つ事業所を今は利用されてて、自分で、ご自身で見つけた事業所もあるんですか。

野瀬　そうね。今は五つ使ってて。

鈴木　あ、ごめんなさい、五つ。

野瀬　そうですね。2 個は僕が見つけたとこ。

鈴木　あ、えーっと、どういうふうに見つけられたんですか。

野瀬　1 個は僕の友達が利用してたんで、(＊＊＊＊ゼンブ@00:58:17)外出のときとかに会ったりして、なるべく知ってる事業所に入ってほしいなっていう思いで、そこに依頼させてもらって、もう一個は僕の友達が副代表をしているところで、そういう理由だけで選んでみました。

鈴木　あ、そうですか。じゃあ、もう、退院する前からご存じでっていうことなんですね。

野瀬　そうです。

鈴木　で、あのー、介助者の方って、事業所がもうあれですか、あのー、基本的に雇用されるんですかね。野瀬、野瀬さんがなんかインタビューして雇用することってありますか。

野瀬　いや、それは僕はしてないですね。

鈴木　じゃあ、基本は事業所が派遣された人を受けるっていう。

野瀬　JC とかだと、うちで働いてみん？っていうのはあると思うんですけど。

鈴木　これ、あれですか。あのー、自分で選びたいとかって思いますか、野瀬さんは。

野瀬　うーん、まあ、気が合う人が入ってくれはるほうが、もちろん楽ではあるんですけど、ただ、まあ、仲がより良くなり過ぎるのも良くないもんかなと思ったり。

鈴木　じゃあ、今のまま、事業所が派遣してもいいのかなっていう。

野瀬　そうですね。

鈴木　これまで、かえ、変えることってありました？　なんか。

野瀬　事業所を変えることは、僕の意思ではなかったですけど、人を変えることはありました。

鈴木　ありました？　それはなんか、まあ、介助の仕方が合わなかったとかですか。

野瀬　介助の仕方どうこうはないんですけど、まあ、遅刻が多かったりした人が、外してほしいっていうふうに相談はしましたけど。

鈴木　それは、じゃあ、すぐに変えて。

野瀬　そうですね。その人（＃＃＃＃＠01:01:01）次入る人の研修をしてから、外れてもらった感じ。

鈴木　じゃあ、あのー、介助者は基本的に、まあ、自分が、自分に合った人に入ってもらえ

てるかなっていう感じですかね。あのー、介助者の調整って事業所がやられてますか。

野瀬　ほとんど事業所がやってる。JCIL だけは、僕が自分から言って、自分でやらせてほしいって言って、一部はやってるんですけど。

鈴木　それは電話とかで調整される？

野瀬　とかメールとか。

鈴木　メールとかで。じゃあ、その場合、介助者が休むってなったときは、野瀬さんが手配するんですか。

野瀬　いや、今のとこ、僕にはそこまでの権限がなくて、僕の担当の方がいるんで、その人か、緊急の場合は、電話番が 1 人は JCIL はいるんで、その人が誰か、僕に、はい、入れる人で、かつ、空いてる人を見つけ出して入ってもらう形ですね。

鈴木　担当って、あのー、野瀬さんを担当する人が JC にいるってことですか。

野瀬　その JC 内のシフト調整とかしてる人がいはる。

鈴木　その、えー、相談員ですか。なんか役割の名前とかあるんですか。その JCIL。

野瀬　コーディネーター。

鈴木　あ、コーディネーターね。はい、はい。じゃあ、他の、えーっと、四つですよね、事業所は、あのー、そこにもコーディネーターがいて。

野瀬　コーディネーターだったり、サービス提供責任者っていわれる人が。

鈴木　じゃあ、まあ、基本的にそちらはそっちで調整してもらって、で、JC のほうは、基本、野瀬さんが自分でやりたいっていうふうに申し出て、やってらっしゃるっていうことなんですね。ちなみに、これ、全部頼むこともできるんですか、JCIL って。

野瀬　あ、できます。

鈴木　あ、そうですか。

野瀬　多分自分でやりたいっていう人は、なかなか少ない。

鈴木　フフフ、フッフ。それ、どうして自分でやりたいって野瀬さんは思ってらっしゃるんですか。

野瀬　オオヤブ君のまねをしただけです。

鈴木　あー、なるほど。

野瀬　オオヤブ君が全部自分でやってた。

鈴木　あ、そうですか。大変ではないですか、自分で。

野瀬　まあ、まだ右も左も分からないんで、そういう大変さはあるんですけど、変な話、大概のときは楽しかったりはしますけど。

鈴木　あー、そうですか。最近そうやって変えたってことですか。

野瀬　この5月からとか。

鈴木　じゃあ、それまでは、まあ、JCIL のコーディネーターさんがやってらっしゃって。なんかきっかけとかってあったんですか、特に。

野瀬　いや、きっかけは特にはないですけど、9月から JCIL の人間になったっていうのもあって JCIL の部分はやらせてもらおうかなと思ったのがきっかけですかね。

鈴木　9月というのは、去年の9月ですよね。介助者、ぼ、ぼ、募集って、や、やります？自分で。

野瀬　僕から JCIL の介助者にならへん？とは言ったことはないですね。

鈴木　そこまでのご希望はないってことなんですか。

野瀬　そうですね。1回弟を誘ってみたんですけど。

鈴木　弟？　あー、え、おと・・・。

野瀬　僕の弟をJCILに。

鈴木　ハハハ、そうですか。でも、野瀬さんご自身の介助をやる人で、そういう人をこう、誘うってことはしたいっていうふうに、気持ちはないってことなんですね。

野瀬　まあ、暇があればやりたいけど。

鈴木　あー、なるほどね。

野瀬　同世代が少ないんで、JCILは。

鈴木　あ、同世代？

野瀬　ほぼ40オーバーが多い。

鈴木　あ、そうなんですか。あ、ごめんなさい、介助者？

野瀬　介助者も。20〜30代もいるにはいるんですけど、ご年配の方が多かったりはする。

鈴木　当事者もですか。

野瀬　当事者もそれこそ40、50以上が多い。

鈴木　あ、そうか。そうですよね。じゃあ、野瀬さんの世代に合った人を募集したいかなっていう、なんか。

野瀬　というのもあります。コイズミさんからも、もっと若い人連れてきてって言われてるんで。

鈴木　フフフ、フッフッフッフ。あと、あのー、前ちょっとおっしゃってた、事業所によってカラーが違うっておっしゃってたじゃないですか。JC は比較的こう、自分で、何ていうのか、当事者が指示するっていうことを大事とされてて、他は、ち、違ったりとかするんですか、他の事業所は。

野瀬　そうですね。他のとこは、JC のとこみたいなところは、多分レアケースだと思う。他のとこは多分、ある程度言わんでもやってくれるって言ったらあれだけど、先に動いてくれてはる感じがします。

鈴木　そのことはどう思います？　あのー。

野瀬　僕、友達のヘルパー利用しか見てなかったんで、最初は何でこの人はなんも動かへんのやろうとか思ったんですけど、そういう戸惑いはあったんですけど、慣れたら全然大丈夫ですね。

鈴木　あのー、何ていうんですかね、そのー、まあ、JC はだから指示しますよね、そういうふうにして。でも、他はある意味こう、自分、ヘルパーさんが動いてしまうと思うんですけど、それはそれで構わないですか、そのヘルパーさん。

野瀬　ええ。

鈴木　そっちはそっちでも構わない。あのー、何ていうんですか、そのー、なんかやっぱそういうふうに両方あったほうがいいのか、それとも全部 JC みたいなほうがいいのか。どう思われます？　野瀬さん。

野瀬　でも、毎日のルーティンみたいなこともあるんで、それをいちいちこう言うのもなかなかめんどくさいんで、ある程度やってもらう、ある程度動いてもらったほうがありがたいなと思います。

鈴木　あー、そうですか。

野瀬　僕は。多分これは人によって結構意見は変わってくると思うんですけど。俺が言うまで何もするなっていう人も JC にはいる。

鈴木　でも、J、あのー、野瀬さんのその JCIL のその介助者はあれですか、そのー、ルーティン的なものはちょっと自分からちょっとやって、やってほしいとか、そういうふうに言うことってできるんですか。

野瀬　まあ、言ったらやってくれる人もいるかもしれないですけど、言ったことないんで分からない。

鈴木　あー、そうなんですか。じゃあ、基本はもう野瀬さんの指示待ちみたいな。それはそれで、まあ、いい・・・。

野瀬　そんな苦痛ではないんで。

鈴木　あー、苦痛ではない。なるほどね。じゃあ、他の、何ていうのかな、そのー、自分たちで、介助者が動いてくれる事業所も入ってくれることで、バランスが取れてる感じですか。

野瀬　そうですね。

鈴木　なるほどね。

野瀬　JC でも人によるとは思うんですけど。なんも言わんでもやってくれる人もいるんで。

鈴木　なるほど。なんか、仕事内容っていうか、そのー、日によってこの事業所とか、なんか日によって使い分けたりとかされていますか。

野瀬　いや、もう曜日で決まってる。

鈴木　あ、曜日で決まってる。なるほど。

野瀬　僕がどうこうはできてはない。

鈴木　あー、そうですか。例えばこの事業所から来る、あのー、この日はこれしようとかって。

野瀬　あー、それはたまにやってたりはするかもしれない。

鈴木　あ、そうですか。例えばどんなことがあります？

野瀬　どんなこと。料理ができる人が、この人のときはレシピ見せずにこれ作ってみてって言おうかなとか。

鈴木　フフフ。なるほど、なるほど。料理が得意な人。もう任せ、任せたほうがかえっていいと。なるほどね。あと、あのー、支援会議とかって開いてらっしゃいますか。

野瀬　一応ヘルパーさんたちを集めて、ミーティングは年に1、2回できたらなとは考えてはいるんですけど。なんか問題があったときは、すぐミーティングを開くようにはしてます。

鈴木　あー、なるほど。定期的ななんか、そのー、医師と、看護師と、なんかヘルパーが集まってみたいな。

野瀬　体調が不安定な時、退院した直後は割としてたんですけど、最近はトラブルもないんで、集まってないです。

鈴木　あ、そうですか。じゃあ、何かあったときにそういう会を開くっていうことで十分ってことですよね。あのー、前、なんか管類がこう、当たっているっていうことを主治医に伝えて、で、主治医の先生が訪問入浴事業所に改善したって、それも会議の中でそういう話が？

野瀬　そういう、そういうカンファレンスで、タナカ先生が訪問入浴のほうに伝えはったと思うんです、確か。

鈴木　その時って、訪問入浴のスタッフの方もいらっしゃるんですか。

野瀬　そうですよ。

鈴木　あ、そうですか。あと、今、あのー、何ていうんですかね、そのー、体位交換とか、とかってもう、あのー、適切にずっとなされてるかなと思いますか。

野瀬　ええ。

鈴木　あと、前、なんか病院の中だと、夜中にこう、電気がこう、ついたりとか何とかって話があったと思うんです。今はもう？

野瀬　今はないです。

鈴木　そういうことがないっていうことですよね。待ち時間とかってないですよね。

野瀬　ないです。

鈴木　フフフ。すぐにそこにいますから。

野瀬　それは。

鈴木　フッフッフッフ。

野瀬　常に待機してくれる。

鈴木　ですよね。常にあれですか、あのー、こう、今、おふ、二つお部屋あるんですけど、介助者の人が別の部屋に？

野瀬　が多い。たまにこっちにいたりはする。

鈴木　あ、そうですか。あのー、多分、まあ、病院の中でも、まあ、看護師さんっていると思うんですけど、なんか地域だと、本当に近くにいらっしゃるじゃないですか。これについてはどう、おも、思いました？　なんか最初出たとき。

野瀬　いや、そんな違和感はなかったですけど、去年ぐらいからずっと視線があれなの、気になるっていう相談をミーティングの時にして、その時、オオヤブ君もこのピアサポーターとして出てたんですけど、扉あるんやから、扉付けたら？って言われて、これ、前は外してたんですけど、扉で遮るようにしました。

鈴木　なるほどね。え、ピアサポーターのオオヤブさんって、オオヤブさん、せん、専属で野瀬さんのピアサポーターってことですか。

野瀬　をしてました。

鈴木　あ、そうですか。なるほどね。そういう、なん、何ていうの、今、あのー、野瀬さんは藤田さんをピアサポーターやってますよね？

野瀬　ええ。

鈴木　で、野瀬さんの場合は、オオヤブさんがピアサポーターで？

野瀬　をしてくれてた、当時は。

鈴木　あ、その時期っていうか。今はじゃあ違うってことですか。

野瀬　うーん、今は違うんかどうかは、微妙な。

鈴木　フフ、微妙な。

野瀬　僕が JC に行ってたので。まあ、ただ、みんなで助け合うっていうことは、多分、あのー、JC は大事にしてはるから、ピアサポートとか関係なしに、仲間内で助け合ったりはしてると思います。

鈴木　なるほどね。今のこの話っていうのは、要するに、あのー、カンファレンスとかじゃなくてっていうことなんですか、そのとび・・・。

野瀬　そのヘルパーさんだけを集めたミーティングとか。

鈴木　あ、じゃあ、そういう場でも JC のピアサポーターの人が来る場合があるんですね。

野瀬　そうですね。

鈴木　それはもうあれですか、あのー、野瀬さんが呼び掛けるんですか、そのー、来てほしいとか。

野瀬　いや、そんな。当時のコーディネーターがオオヤブ君を呼んだらいいみたいな。一番分かってくれてるからっていう意見で、オオヤブ君を呼んでっていう感じです。

鈴木　なるほど。それは、でも、貴重なアドバイスですよね。オオヤブさん、ずっとこう、もう本当に介助の経験が豊富なんで。なるほどね。やっぱりあれですかね、そういった当事者目線でのそういうピアサポーターの助言って、すごくやっぱり重要ですか。

野瀬　そうですね。やっぱ同じ目線でしゃべってるんで。利用者が集まるカンファレンスでも、ピアサポーターは(＊＊＊＊ゼッタイ@01:16:59)ですね。

鈴木　なるほどね。あのー、退院してからの、何ていうんですかね、体重って、ふえ、増えました？

野瀬　増えました。

鈴木　どのぐらい増えました？

野瀬　倍近くは。

鈴木　倍。そうですよね。

野瀬　もともと痩せ過ぎやったんですけど、今はもう、お母さんからも太り過ぎって言われてるんで。

鈴木　そういうふうに言われるぐらいに。いや、僕も、あのー、過去の野瀬さんの写真とか見て、なんか顔が全然違ってるみたいな。全然違うなって思ったんですけど。やっぱり地域に出てきてたほうが、体の調子はいい感じですか。

野瀬　そうですね。やっぱご飯食べれるのが大きいから。

鈴木　褥瘡ってできたことあります？　地域で。

野瀬　ないです。看護師さんが週に１回チェックしてくれてはるんで。

鈴木　でも、一応病棟でも週何回かチェックしてたわけですよね？

野瀬　そう。お風呂とかトイレとか、見る機会は全然あると思う。見てはったとは思うんですけど。

鈴木　回数的にはやっぱ違うんですか。そのー、病棟の中のそういうチェックと。

野瀬　いや、回数は全然病院のほうが多いとは思うんですけど、多分かける時間が、多分訪問看護のほうが長いと思う。

鈴木　なるほど。一回一回にかける時間ですね。

野瀬　そうです。

鈴木　丁寧さが違うってことなんですか。

野瀬　そうです。

（無言）

鈴木　睡眠なんかはやっぱり地域のほうがとれてますか。

野瀬　そうですね。

鈴木　起こされるみたいなことないですもんね。

野瀬　ないですね。

鈴木　あと、あのー、2010、えーっと、19 年 7 月に退院されて、で、その前からデザイナーの仕事を事業所と個人契約でやられてたと思うんですけど、そのー、退院された後も、その事業所で個人契約のデザイナーと、それから A 型でしたっけ、B 型でしたっけ。

野瀬　B 型。

鈴木　B 型をやるわけですよね。あのー、病院の中でデザイナーの仕事をするのと、地域に出てきてデザイナーの仕事をしてるのと、違いはありましたか。

野瀬　やること変わらないんであれですけど、こっちのほうが集中というか、時間は取れるかな。

鈴木　あ、時間が取れる。

野瀬　あとは、まあ、作業所とかに行ったりして、ちゃんと時間が設けられるんで。病院とかだと、急に処置が入ったり、看護婦さんに、何や、今からこれするよとかいう、言われることがない。

鈴木　仕事に集中できるってことですね。

野瀬　そうですね。

鈴木　なるほどね。で、それが、えーっと、えーっと、お辞めになったのっていつでしたっけ、そのデザイナーの仕事を。

野瀬　去年の 7 月いっぱいです。

鈴木　それは、ある意味コロナとかも関係してるっていうことでしたよね。

野瀬　コロナで、まあ、作業所を、行ってたのもテレワークになって、で、やっぱ、その一、人の喜ぶ顔とかが見たかったり、もともと、ない、内部の仕事というか、上の人からこれ作ってって言われて、作って渡す。その上の人に渡すだけなんで、お客さんと関わる機会がゼロになったっていうのもあって、まあ、そのリモートというか。あって、人の喜ぶ顔とかが見たいなと。で、まあ、ずっと JC は待ってくれてはったから、もう JC に移籍しようと思って、7 月いっぱいで辞めて、8 月に体験っていう形でしばらく活動して、9 月から正式に所員になった形です。

鈴木　あ、はい、はい。立場としてはどういう立場なんでしたっけ、JCIL で。

野瀬　立場は、一応ピアサポーター。

鈴木　ピアサポーター。

野瀬　あとはワークス共同作業所っていうのが JC にあるんですけど、デザインさせてもらったり。

鈴木　なるほど。

野瀬　あとは 3 階に自立支援事業所っていうのがあるんで、そこで一応社員っていう役割で、総会とかがあれば総会に行って、一応意見は言える立場ではあります。

鈴木　社員っていうんですね。

野瀬　社員。

鈴木　あ、JC の中は社員っていうふうに言うんですか。

野瀬　いや、なんか僕もよく分かってないんですけど、JC は職員と社員と所員がいて、で、まあ、僕は所員でもあって、社員でもあるんですけど。

鈴木　なるほど。

野瀬　社員がその総会とかで一応意見とか言っていい、言える立場らしいです。

鈴木　なるほど。ちなみに、あのー、JC で働いてて、あのー、給与ってあるんでしたっけ。

野瀬　給料はないに等しいです。

鈴木　ないに等しい。

野瀬　ある、あるっちゃある。

鈴木　工賃ですか。

野瀬　工賃です。

鈴木　ちなみにおいくらですか。

野瀬　1 日行ったら 500 円。

鈴木　あ、なるほど。

野瀬　まあ、30 分だろうが、1 時間だろうが、6 時間だろうが。

鈴木　あー、そうですか。

野瀬　500 円。

鈴木　それが野瀬さんの場合は、えーっと、何回行かれるんでしたっけ。

野瀬　まあ、フルで行けば、火、水行ってるんで。

鈴木　8 回？

野瀬　8 回。

鈴木　4000 円ぐらいですか。

野瀬　そうですね、フルで行けば。

鈴木　これ、デザイナーをされてた時のお仕事の時は、その時はどのぐらいもらってらっしゃったんですか。

野瀬　その時はいくらやったかな。そこは時給やったんですけど、10 時から 16 時まで行ってて、750 円とかだったかな。

鈴木　時給が 750 円？

野瀬　いや。時給はなんぼか忘れたんですけど、まあ、そんだけいたら 750 円やった気がする。

鈴木　あ、日給ってことですか。

野瀬　ええ。

鈴木　比較的毎日行かれてたんですか、最初の頃って。

野瀬　いや、週 1 回。

鈴木　あ、週 1 回？

野瀬　週 1 回あるかないか。

鈴木　あ、そうですか。

野瀬　なんか向こうの都合で、休んでくれって言われるときもあって、行ってない週もあったり。

鈴木　じゃあ、収入的には、基本的に、あ、JC のほうがちょっと上、上ぐらいなんですかね。

野瀬　まあ、僕、火、水行ってるんで。その時は状態もあれやったんで、曜日は少なかったんだけど。まあ、でも、前の職場のほうが日当で言えば上ですけど。750 円。

鈴木　あー、そうですね。回数がちょっとね、少ない。

野瀬　そうです。

鈴木　じゃあ、外出っていうか、なんか、た、あのー、病院にいる時って、もうほとんど外出できない状況で、で、制限される前も月 1 回か 2 回でしたよね。

野瀬　ええ。

鈴木　でも、退院されてからも、週何回ぐらいのペースでもう。

野瀬　多くて週 7 で。

鈴木　週 7。フッフッフ。

野瀬　少なくても週 4 から 5 は出てる。

鈴木　フフ。もう全然違いますね。そうですか。それで、別に体に不調があったとかそういうことは？

野瀬　ないです。

鈴木　ないですもんね。やっぱ駅の近くっていうことが、やっぱり大きいですか。なんか、前、全然交通の便が悪かったですもんね。

野瀬　そうですね。

鈴木　バスよりも地下鉄のほうが楽ですか。

野瀬　そうですね。すいてることが多いというか。バスは狭い。

鈴木　バス狭いですよね。病棟の時のあのバスって、ノンステップで来るんですか、バスは。

野瀬　そうですね。スロープ出してもらって。

鈴木　あ、スロープ出してもらって。で、あと、あのー、前ちょっとおっしゃっていた、あのー、通帳おろす時って、銀行行くっていうの、毎回野瀬さんは行きますか、基本的には。

野瀬　一緒に行くようにしてる。

鈴木　ですよね。通帳っていうのはどこで保管されてるんですか。

野瀬　通帳は、通帳、僕もうデジタルに変えたんで、通帳自体はスマホなんですけど。

鈴木　なるほど。

野瀬　キャッシュカードは常に持ち歩いてます。

鈴木　それは、あのー、前もなんかおっしゃってた、病院の中だと、そのー、あのー、金庫みたいなのがあって、だけど、ちょっと不安だったっていうのがある、あると思うんですけど、こちらはどうですか。

野瀬　普通にかばんに入れてる。

鈴木　かばんに入れてる。フフ。それは、まあ、安心があるからっていう？

野瀬　まあ、でも、言って、あんまり言っていいんか知らないですけど、JCIL 内でも窃盗事件があった。

鈴木　あー、そうですよね。やっぱり人間だからそういうことが起こり得ますもんね。だけど・・・。

野瀬　安心はできない。

鈴木　安心はできない。そのあん、安心感っていうのは、でも、病院よりはましなんですか。

野瀬　病院よりはましです。

鈴木　まあ、人の数も全然違うっていうのも。

野瀬　ずっと近くに、そのカードの近くとかに僕がいるんで、夜中寝てない限りは分かるか

ら。

鈴木　え、でも、前のあれも、あれっていうか、そのー、病棟の中でも、き、金庫って自分の近くですよね。

野瀬　でも、そのー、お風呂とかに離れたり、検査で離れたりはする。

鈴木　なるほど。

野瀬　別に鍵を隠してるわけじゃないから、開け放題なんで。

鈴木　なるほど。そういうことですか。こっちの地域だと、もう常に身に離さず持っていけるっていうことですか。

野瀬　そう。

鈴木　なるほどね。

野瀬　3000 円以上は持たんようにはしてたんですけど。

鈴木　あー、現金で？

野瀬　そうです。

鈴木　もし、でも、病院の中でそういうキャッシュカードがあったら、それを自分の、常に、あのー、あのー、身に離さず持って検査に行くとかできなかったんですかね。

野瀬　自分で動ける人やったらできたと思うんですけど、多分、言ったら、言ったことないんで分からないですけど、そんなん要らんやんとか言われると思う。

鈴木　あー、なるほど。そういうことですか。今の地域はもう自分が思うとおりにできる。

野瀬　そうですね。逆に、それを無視したらそれはそれで問題になって、やっぱ事業所が何らかの処分を下さないと駄目。

鈴木　なるほどね。なんか、もう力関係がね、全然。当事者がやっぱり上になるから。なる

ほどね。あと、今この地域で暮らされてて、自治会とかって入ってらっしゃいますか。

野瀬　いや、僕は入ってないです。

鈴木　あの一、なんか周りの、もう、あの一、多分住民の人っていらっしゃるわけですよね。

野瀬　住民、多分隣が大学生っぽい人。

鈴木　あ、そうですか。関わりとかってなんかあります？

野瀬　いや。前ですれ違った時にごあいさつするぐらい。

鈴木　なんか地域の、その一、行事とかに参加することってありますか。

野瀬　いや、したことないです。

鈴木　なんか、京都だといろんな、まあ、今はコロナであれですけど、あると思うんですけど、それは別に特に参加しなくてもいいかなっていう。

野瀬　ちょうど、この、そのコロナ前の脳出血とかで、なかなか。

鈴木　そうですよね。

野瀬　ちょうどそこで動けたら、もっとなんか親交があったんかもしれないですけど。

鈴木　なるほど。

野瀬　コロナのせいでない。ないですね。

鈴木　なるほど。そ、その後、す、すぐにコロナが来て、もう行事もなくなってしまってみたいな。あの一、災害訓練とかってやらないんですか。避難訓練とか。

野瀬　僕じゃないんですけど、藤田さんが結構災害のことを気にされてて。

鈴木　ですよね。

野瀬　1回どっかでしようかなという相談にはなってるんですけど、まあ、それこそやると、近隣の人とかに状態を知っといてもらったほうが、助けてもらえる可能性があるんで。

鈴木　ですよね。

野瀬　まあ、その周りの人に向けた手紙とか作ったほうがいいのかなっていうのが、話はしているところです。

鈴木　あー、やっぱりそこは、やっぱり心配されてるってことですか。

野瀬　そうですね。

鈴木　野瀬さんご自身は心配じゃないんですか、その部分は。

野瀬　うーん、心配っちゃ心配なんですけど、僕の場合、扉さえ開けば、ヘルパー1人いれば、僕を抱えたりもできはるから、どっかに逃げれるかなと思って。

鈴木　なるほどね。

野瀬　一応避難グッズは幾つか用意はしてあるんですけど。

鈴木　あのー、地域の回覧板とかも、じゃあ、特にこう、来ることもないってことですもんね。

野瀬　ないですね。

鈴木　あと、野瀬さんがこう、退院したことでなんか友人関係とかで、へん、変化とかって、あ、あ、あることってありましたか、なんか。人が訪ねてくるようになったりとか。

野瀬　うーん、ほんまはみんなと、みんなも来てはったり、こっちから行ったりしたかったんですけど、それは生活落ち着いた頃に脳出血があって、コロナが来たんで、なかなかないです。

鈴木　あのー、コロナ禍になって、なんか生活って変化はありましたか。

野瀬　うーん、そうだな。生活の変化。

鈴木　退院されたのが 12 月でしたっけ。

野瀬　そうですね。

鈴木　ですよね。で、その後、生活して、すぐコロナでバタバタになっていきますけど。

野瀬　京都から出なくはなったり、その前、その前っていうか、1 回滋賀に行ったぐらいやけど、行ったり。あんまり遠出をする機会はなくなったと。介助者とか看護師さんとか絶対マスクしはるようになったり、人によってはゴーグル着けたりするようになったかなっていう感じですね。

鈴木　なんか、きも、気持ち的になんか、なんかつらかったとかそういうことはありましたか。

野瀬　うーん、やっぱ最初の頃はどんな病気かも分かってなかったから、先生も極力家にいなさいみたいな感じで。で、まあ、そこで家にいる期間が長かったのは、ほぼ毎日出てた僕からしたら、つらくはあったけど、まあ、病院にもともといたんで、それほど苦ではなかったけどっていう感じです。

鈴木　なるほどね。あのー、Zoom を使用するようになったのって、そのぐらいからですか、コロナの。

野瀬　恐らくそうだと思う。

鈴木　それはすぐ慣れました？　Zoom。

野瀬　Zoom はすぐ(＊＊＊＊ダヨ@01:36:41)。

鈴木　つまり、あのー、あ、そうか。そうですよね。仕事はもう行かれてたわけですもんね。で、それが行けなくなって。

野瀬　いや、もともと、あのー、脳出血の時に休職して、そんなに、当時喉、喉の管が変わって、発声ができんくなってしまって。

鈴木　あ、そうですか。

野瀬　で、まあ、発声ができるまでは休ませてほしいっていうふうにお願いして、休んで、ちょっと、まあ、2月ぐらいから声が出始めたんで、また管を戻したんで。で、まあ、3月か 4 月ぐらいから仕事に復帰するけど、コロナの影響でリモートワークに変わっててっていう感じですね。

鈴木　あ、じゃあ、その頃から、じゃあ、そのー、事業所ともリモートで？

野瀬　まあ、その前はまだ、デザイナーやったんであれですけど、まあ、会議とかはそうですね。リモートで。

鈴木　あー、そうですか。じゃあ、その時はもう Zoom を使い始めたんですか。

野瀬　ええ。

鈴木　あ、そうですか。セッティングとかはじゃあ、す、すぐ、もう、で、で、できて？

野瀬　そうですね。

鈴木　あと、あのー、何ていうんですかね、福祉の情報っていうか、まあ、病院にいる時って(＊＊＊＊ジュウホウ@01:38:29)の情報すら入ってこないような状況だったと思うんですけど、地域に行くとやっぱりこう、福祉関係の情報って入ってくるような感じになってきてますか。

野瀬　なんか、その JC の前の職場やと入ってこないんですけど、やっぱ JC に行くと常にそういう話題しか飛び交ってない。

鈴木　フフフ、フッフッフ。

野瀬　自然と入ってきてます。

鈴木　あー、なるほど。事業所にね、より、やっぱよりますもんね。で、あと、あのー、サービス(＊＊＊＊トリオキカク@01:39:06)って今もセルフプランでずっとやってらっしゃるわけですよね。

野瀬　はい。

鈴木　あと、ふじ、藤田さんのピアサポートって、いつ、いつから始められているんでしたっけ。あれは。

野瀬　退院した日から。

鈴木　あ、退院した日から。

野瀬　その前まではオカヤマさんと結構やってはった。

鈴木　あ、そうですか。

野瀬　僕もずっとやらせてくださいとは言ってたんですけど。

鈴木　藤田さん退院したの、2020 年の 10 月の 20、え？

野瀬　7 やった。

鈴木　27 とかですよね。

野瀬　その前からピアサポートというか、訪問看護を同じところでやるんで、間に入ってやりとりはさせていただいてた。

鈴木　あ、そうですか。訪問看護についてのやりとりをされてた？

野瀬　訪問看護のそういう。そうですね。こういう情報を教えてほしいって言われたら、僕が代わりに意見言って、お伝えしたり。

鈴木　じゃあ、訪問看護以外のなんかそういう、か、介助とかも、に関することも？

野瀬　いや、その間は全部他の方がコーディネーターだったんで、オカヤマさんが。

鈴木　今やってるのは藤田さんだけですか。タナカさんもやってらっしゃるんですか。

野瀬　タナカさんも。そうですね。ご本人の意向に合わせつつ。

鈴木　あー、そうですか。この、何ていうんですかね、ピアサポートっていう、この仕組みについてって、野瀬さんはどう思います？

野瀬　同じ目線の人がアドバイスだったり、助言を出すのは、それは画期的でいいことなんじゃないかなというふうに思いますね。

鈴木　あ、そうですか。藤田さんも結構それは、あのー、どんな受け止め方をされてるんですか。

野瀬　直接聞いたわけじゃないですけど、とても助かってるっていうふうに、お母さんだったり藤田さんに関わってる介助者からは聞いたりしています。

鈴木　あ、そうですか。昨日、なんか定例会議で、タナカさんのほうはなんかちょっと距離感があるみたいな。それはなんかそういうふうに感じますか。

野瀬　そうですね。やっぱ若干理解に苦しんでいはるところはあると思うんで、もともと僕昔から知ってはいるんですけど、こんな言い方していいのかは分からないですけど、若干知的障害者っぽいところがあるようで、なかなかピアサポーターだったり、地域(＊＊＊＊イコウ@01:42:34)だとか地域定着だとか、ミーティングだって言われても、困らはる部分があるのかなとは思いますね。

鈴木　なるほどね。あのー、じゃあ、そのー、なんか、何ていうんですかね、ピアサポートって、なんか、まあ、合う、合う人と合わない人がいるのかなっていう。

野瀬　恐らく。藤田さんの中では多分、違う、タナカさんの中では多分健常者がして当たり前だみたいな考え方やと思うんで。僕らが動いてることに関して、多分違和感を覚えてはるのかなと。

鈴木　なるほどね。あのー、藤田さんって、あのー、野瀬さんは結構宇多野病院の中で、せ、せ、接点はあったんですか。

野瀬　そうです。小さい時から遊んでもらったりはしてた。

鈴木　あ、そうですか。遊んでもらったり、いし、あ、結構上、上・・・。

野瀬　僕がまだ小さい時に。

鈴木　上ですよね、藤田さんって。

野瀬　そう。39 歳なの。

鈴木　ですよね。てことは・・・。

野瀬　十何個違う。

鈴木　病院の中で遊んだ記憶があるってことですか。

野瀬　結構昔はみんなで食堂集まって、みんなでゲームをしたりとか。お互いの部屋行って、ご飯を一緒に食べはしてた。

鈴木　あ、そうなんですか。じゃあ、その頃は、じゃあ、藤田さんと結構、は、話せた？

野瀬　そうですね。

鈴木　状況で。

野瀬　気管切開もしてなかった。

鈴木　あ、そうですか。じゃあ、お互いに知ってるんですね、かなり。

野瀬　そうですね。そういった部分もあって、ピアサポートをしてることに安心をしてくれてはると思います。

鈴木　なるほどね。え、えーっと、野瀬さんが藤田さんの(＊＊＊＊シーン@01:44:39)やりたいっていうふうに思ったの、ど、どうしてですか。

野瀬　まあ、気管切開してて、宇多野から出ていって、なかなか難しい状況に置かれているというのは、まあ、会議とかで聞いてたんで、割と、そのー、状態が似てたんで、僕がアドバイスしたらいいんじゃないかなと思って、打診をさせてもらいました。

鈴木　なるほど。そうですよね。状況がね、すごく似てらっしゃいますよね。待遇っていうか、受けてきたことっていうのも。じゃあ、お互い、まあ、そういうことが分かり合ってい

るから、手助けになるんじゃないかっていう。なるほどね。まあ、ある意味、ピアサポーターってそういう接点があったほうがこう、うまくいくっていうか。

野瀬　そうかもしれないですね。

鈴木　なるほど。野瀬、あ、野瀬さんご自身がこう、支援をすることでなんかこう、自分、ご自身の中で、へ、変化っていうかはあります？

野瀬　変化。やっぱ、もっと地域から、施設とか病院から出てきたほうが、楽しい生活ができるっていうのを、皆さんに伝えながら、これからも支援を続けていきたいなと思いはしてます。

鈴木　今まで、どちらかというと、なんかサポートを受けてた側ですよね、野瀬さん。でも、出てきてから、今度逆にサポートをするような感じになって、それってやっぱり、ご自身にとって、なんか自信につながったりとかってありますか。

野瀬　やっぱああいうつらい状況から脱却させてくれたのは、オオヤブ君とかJCILのおかげなんで、まあ、その恩返しするためにもJCILに入って、手伝うことが恩返しかなと思ってやってます。

鈴木　なるほどね。今は、あのー、藤田さんのサポートって、もう1週間に1回ぐらい行ってるような感じですか。

野瀬　多くてそうですね。まあ、次いつ来てほしいですかっていう希望をお聞きしてっていう感じです。

鈴木　あ、そうですか。つまり、2000、えーっと、20年の10月の終わりぐらい、27からもう始めて、1週間1回とか。

野瀬　最初の頃は安定してなかったんで、ほぼ毎日とか、1日おきとかに行ったり。

鈴木　あ、そうですか。

野瀬　相談、困り事をお聞きしたりはしてたんですけど。

鈴木　その頃、多かった困り事とかって何ですか。

野瀬　何かな。ほぼ地域に出てこられるのも、1 人暮らし自体初めてなんで、ものの管理の方法とか、どういうふうに介助者に指示してるかとか、それからこういうときどうしてるっていうふうなことを聞かれたりはしました。

鈴木　なるほどね。まあ、あと医療、医療に関することとかですかね。

野瀬　そうです。

鈴木　で、だんだんそういう回数っていうのが減って、減っていくものなんですか。

野瀬　今は減っていってます。

鈴木　大体こう、1 週間 1 回ぐらいになり始めたのって、何カ月後ぐらいだったですか。

野瀬　うーん、2 月か 3 月から、1 週間に 1 回ぐらいしか行ってないと。

鈴木　あ、そうですか。

野瀬　せんげ、先月？先々月は多かったんですけど、取材対応とかを手伝ってたんで。

鈴木　あ、そうですか。じゃあ、もう、だいぶ安定すると、まあ、訪問回数も減っていくような感じですか。

野瀬　そうですね。僕も最後に行ったのは先々週とかなんで。次回は 11 日に来てほしいってことで。

鈴木　あ、そうですか。

野瀬　多分 1 カ月に 1 回ぐらいとかになっていくんじゃないかな。

鈴木　なるほどね。

野瀬　もちろん困り事があればすぐ行きますとは言ってあるんですけど。

鈴木　訪問入浴のあのトラブルは、もう解消されたんでしたっけ。

野瀬　それがまだ聞けてないんですけど、その、カ、カンファレンスというか、訪問入浴の管理者の方と、藤田さんと、藤田さん担当のコーディネーターの方が話し合われる席に、まあ、来てほしいという、いうあれがあったんで行ってきて、改善する方向でっていう話やったんで、恐らく改善はされたと思うんですけど、それはまだ聞けてないんで。

鈴木　なるほど。で、あのー、先ほどおっしゃってた、あのご家族、藤田さんのご家族って、当初不安だったんですか、その退院される時って。

野瀬　うーん、まあ、1人暮らしに関しては、多分賛成やったと思うんですけど、医療面とかで恐らく心配もあったのかなというふうに思います。僕も最初から関わってるわけじゃないんで、お母さんがどういう思いで送り出したのかは、詳細は分からないですけど。

鈴木　その後あれですか、そのー、お、あのー、お母さまとお話しされることはあったんですか。ど、どんなお話をされるんですか。

野瀬　まあ、例えば、訪問、訪問入浴のトラブルであったり、あとは、こういう制度を使いたいんだけどどうしたらいいかなっていう相談を受けたり、あとは、まあ、医療物品をどういうふうに管理してるかっていう相談を受けたりはしました。

鈴木　それは、あのー、野瀬さんが訪問される時に、お母さまも来ていただくような形で予定調整されるんですか。

野瀬　いや、もう、行ったらいはる感じです。

鈴木　あ、結構じゃあ頻繁に。

野瀬　同じマンションに住んでる。

鈴木　あ、そうですか。

野瀬　部屋は違うんですけど。

鈴木　あ、そうなんですね。あと、なん、何でしたっけ、外出の支援って、なんか前されたっていうふうにおっしゃってましたよね。

野瀬　多分 2、3 回支援してます。

鈴木　2、3 回。それは、逆にいうと、そ、それまではあんまり、出てから外出はされてなかったってことなんですか。

野瀬　なかなか。介助者が藤田さんは 2 人いないと外出は厳しい状況なんで、それは移乗の方法も、各介助者にレクチャーというか、まあ、移乗方法を、どうやったら安全かっていう方法を見つけるのになかなか苦労しはって、ようやく最近安定してきて、コンスタントに外出ができるようになってきたかなって感じですね。

鈴木　あ、そうですか。その時の、その移乗の方法なんかは野瀬さんがご助言されるんですか。

野瀬　まあ、1 回見せて、どういう移乗を介助者が考えているのかを見せてもらって、ちょっとここはこうしたらいいんじゃないですかっていうのは、言ったりはしてました。

鈴木　なるほどね。それはやっぱり野瀬さんのご自身の経験があるから、それは。

野瀬　まあ、呼吸器付いていてなんで、呼吸器の扱いとかは助言できるんで。

鈴木　なるほど。結構時間かかるっていうふうに、なんか報告されてますけど、時間かかるもんなんですか、移乗して外出するまでって。

野瀬　準備とかに、まあ、見過ぎても、1 時間は見とかんと出れないかなっていう感じなんで。

鈴木　あ、そうですか。

野瀬　で、その移動も、ここから同志社とかやったら、10 分ぐらいで着くと思うんですけど、徒歩で。それも多分 20 分とか 30 分見とかないと、その一、吸引が多いんで。

鈴木　あ、そうですか。

野瀬　道中でも吸引されるんで、それらも見越して、支援しないとっていう感じです。

鈴木　あ、そうですか。なるほどね。じゃあ、その時も野瀬さんが一緒にこう、行かれて、

その様子を見て。

野瀬　そう。

鈴木　そうすると、じゃあ、なん、どのぐらいかかるんですかね。移乗で、1 時間で、外出でも 1 時間っていう感じですか。

野瀬　そうですね。まあ、移乗がそれぐらいかかります。こないだも植物園行きたいって言わはった。植物園は緊急事態出てたんで、4 時閉園。

鈴木　そうですね。

野瀬　で、移乗ができる介助者が 2 時に来る予定やって、2 時に僕も一緒に行って、でも、そこから乗って、何やらしてたら 3 時前ぐらいになって、で、まあ、4 時に入れば、まあ、30 分は見れるかなと思ったんですけど、やっぱ吸引とかがあれなんで、結局たどり着けず、目的地変えてっていう感じです。

鈴木　なるほどね。じゃあ、やっぱり時間がね、やっぱり必要だってことですね。

野瀬　そうですね。

鈴木　じゃあ、もう 3 回やられて、もうあとは自分たちでできるような感じになってるってことですか。

野瀬　先週とかはもう僕なしで出られたっていうふうに、介助、その介助者からは聞いてます。

鈴木　あ、そうですか。じゃあ、大体 2 回ぐらい野瀬さんが入られれば、できるようになるかなっていう。

野瀬　やっぱ技術面とかもあるかもしれないんで、もちろんコーディネーター、健常者スタッフにいてもらってっていうのもやらない駄目やと思うんですけど。抱えたりっていうのは、僕では助言ができないんで。

鈴木　はいはい、はいはい。なるほどね。トータルでどのぐらい、外出の移乗から支援までって、できるようになるまでってかかります？　野瀬さんが関わる時間的に。

野瀬　時間は、移乗、最初その移乗の練習だけで2時間とか取られて、その後、いざ外出ってなって、付いていったのが、携帯を持ってなかったので、藤田さん自身が。それを契約されるのに、それが、まあ、ほぼ初めての外出予定だったんで、で、付いていったのが、2時半ぐらいに出発されて、歩かれて、4時ぐらいに着いた。で、まあ、そこから契約も、個人情報があるんで、同行しといて大丈夫かとかは一応伺ったんですけど、ぜひアドバイスが欲しいということで、まあ、いさせてもらって、藤田さん自体は9時半ぐらいまで外にいはったっていうふうには聞いてます。

鈴木　9時半。あ、そうですか。

野瀬　僕はもう8時ぐらい、まあ、契約終わったのが8時ぐらいには終わったんで、そこでお別れさせてもらったんですけど。

鈴木　まあ、そうですよね。携帯、時間かかりますもんね、契約。

野瀬　そうですね。新規やから余計。

鈴木　それ、藤田さんは大丈夫でしたか、その一、長時間かなり外出に・・・。

野瀬　その時は大丈夫やった。

鈴木　あ、そうですか。まあ、吸引とかをこまめにやれば安全だっていうことですよね。

野瀬　先々週は若干体調を、外出の後に体調を崩されたみたい。

鈴木　あ、そうですか。

野瀬　その取材対応とかで外出がしばらくできてなくて、急に暑いとこに出はったから、体調悪くなったんじゃないかっていう、訪問看護の方は言ってはりました。

鈴木　あ、そうですか。なるほどね。

野瀬　まあ、慣らす意味では、たまには出といたほうがいいと思う。急に出るよりかは。

鈴木　あー、なるほどね。じゃあ、まあ、それを1回やって、で、もう一回外出の支援をさ

れるわけですよね、野瀬さん。

野瀬　そうです。

鈴木　で、そう、そのぐらいやると、大体介助者の人も分かってくるような。

野瀬　そうですね。

鈴木　3回ぐらいですかね、じゃあ、トータルで。

野瀬　3回ですね。2回目は下鴨神社のほうまで行かはった。

鈴木　で、3回目は植物園ですもんね。

野瀬　植物園やけど、閉まっちゃったから。

鈴木　行けなかったっていう。

野瀬　出町柳商店街を。

鈴木　あ、出町柳商店。なるほど。じゃあ、もう3回ぐらいまでいけば、大体皆さん、移乗と外出が。

野瀬　恐らく。3、4回すれば。

鈴木　あのー、藤田さんの介助研修って、野瀬さんのこのお宅でやられてたんですか、そのー、退院前で。なんかそんな話。

野瀬　あー、そうですね。藤田さんに入る予定の介助者が僕の家に来て、呼吸器の扱いだったり。まあ、移乗の様子なんかを見たりして。まあ、ただ、やっぱ体が違うんでね、違う部分が多いとは思うんですけど。

鈴木　なるほどね。

野瀬　急きょコイズミさんから依頼があって、受けさせてもらいました。

鈴木　それは、藤田さんは特になんかおっしゃってましたか、その研修できなかったけど。

野瀬　藤田さんからは特に聞いてはないですね。

鈴木　野瀬さんご自身、ご自身はまあ、それはまあ、や、役に立てるんだったらってことで。

野瀬　そうですね。

鈴木　あと、あのー、藤田さんが退院された時の荷物運搬って、野瀬さんはサポートされたんですか。

野瀬　いや、僕はしてないですね。健常者スタッフだけやった。

鈴木　あ、そうですか。

野瀬　荷物なんで。

鈴木　指示とかされたってことですか。

野瀬　いや。いや、特に何も。

鈴木　あ、それは特に。今、Zoom とかで藤田さんの支援とかされます？　そういうことってありますか。

野瀬　それは、災害ミーティングみたいなのを Zoom でやってますよ。

鈴木　あ、そうですか。じゃあ、普段はもうご自宅行ってみたいな。

野瀬　ええ。

鈴木　コロナの中でもそういう心配なく、訪問をお互いにされてるってことなんですかね。

野瀬　まあ、一応ご本人の希望を聞いて、怖いって言わはったら多分行ってはないと思うんですけど。

鈴木　まあ、当初はね、やっぱり不安だったっていうのもありますし。

野瀬　そうです。

鈴木　で、もう、あ、でも、結構もう、なか、あれですよね、2020 年の 10 月っていうことは、相当ね、時間がたってますよね、これも。

野瀬　そうですね。

鈴木　でも、大体時間がたって、なん、何となくこういうもんなんだっていうことが分かり始めて、まあ、訪問も、まあ、できないことはないだろうっていう感じで。あのー、その後、なんか Zoom を使用して、なんかを、何ですか、そのー、えーっと、お勧めスポットを紹介してって、なんかそんなこともあったんですか。

野瀬　そうですね。

鈴木　それは藤田さんも Zoom 参加して、こんなこと言ったらいいんじゃないかみたいな。

野瀬　僕が、ここお勧めですっていうのをみんな順番に。まあ、国内外問わず。

鈴木　アハハハ。フッフッフッフ。そうですよね。もうずっと地域にやっぱり行く機会がないと、どこに行ったらいいのか分かんないって、そういうことですか。

野瀬　そうですね。

鈴木　なるほどね。あと、ビンゴ大会を年末にやったりとか、それは Zoom なんですか、これ。

野瀬　Zoom ですね。僕だけ藤田さんの所行って、Zoom のセッティングとかをさせてもらった。

鈴木　あ、なるほど。そういうこともされるんですか。セッティングのサポートもするんですね。

野瀬　そうですね。

鈴木　変な話、介助者の方は、そのセッティングがよく分からないような状況ってことなん

ですか。

野瀬　そうですね。藤田さんの多分、Zoom のセッティングが、その頃(＃＃＃＃@02:04:23)定まってきたばかりやったんで。申し送りが行き渡ってないときがあったので、僕がサポートに行って、僕もそこから参加してっていう感じです。

鈴木　なるほど。まあ、年末ということは、もう 2 カ月、うん？ぐらいですもんね、退院してから。

(無言)

鈴木　で、タナカさんのピアサポートの支援っていうのも、野瀬さん、定期的にやってるんですか。

野瀬　うーん。なんか、前行ったのは、せん、先々日ぐらいなんですけど。

鈴木　あ、先々日。

野瀬　共通の介助者から、こんなこと困ってはるのって言わはれたのを聞いて、まあ、実際おうちに伺って、(＃＃＃＃@02:05:22)一緒に相談するようなことで、なんか困り事があれば行く感じですね。

鈴木　なるほどね。あのー、ピアサポーターっていわれてる人って、JCIL に何人いらっしゃるんですか。

野瀬　ピアサポーターは、本当は事務所にいるメンバーは全員多分ピアサポーターなんで、多分何人やろ。僕は去年入ったばっかりで分からないですけど、多分 10 人以内ぐらい。

鈴木　で、それで、あのー、たと、例えば、そのー、タナカさんにそういうトラブルがあった場合に、誰が行くのかってなったときに、それは JCIL の中で話し合いをされて、決められるってことなんですか。

野瀬　まあ、そうですね。一応そういうのもまた Messenger になるんですけど、こういう困り事があったってんで、僕行ってきますねっていって、言って行く感じです。誰が行ったらいかんかのときは、誰が行ったらいいと思いますかっていうのを、多分そのグループで投げ掛けて。

鈴木　なるほど。で、あのー、ご本人からご指名がある場合もあるっていうこと？

野瀬　多分、そうです。

鈴木　で、タナカさんの場合は、まあ、事業所が一緒だっていうことで、野瀬さんご自身で手を挙げられたんですか。

野瀬　共通の介助者から僕に相談があったんで、僕に言われたら僕が行くしか。

鈴木　あー、そうですね。向こうから、そうですよね。

野瀬　昔から知り合いっていうことで、タナカさん。

鈴木　タナカさんとの接点もあったんですか、病院の中で。

野瀬　そうですね。タナカさんが 18 ぐらいの時から僕は知ってるんで。

鈴木　あー、そうですか。年齢的にも近いですよね、タナカさんは。

野瀬　タナカさん、今は何歳やろ。33 か 4 かぐらいだけど。

鈴木　あ、ちょっと離れてますか。健常者とピアサポーターって、役割って一応こう、分担してるような感じですか。

野瀬　まあ、一緒になってやることもあるんですけど。

鈴木　ピアサポーターは、こ、ここをとか、健常者は、こ、こ、これをやるとか。

野瀬　いや、そんなはっきりとした多分線引きはない。

鈴木　あ、それはないんですね。じゃあ、その都度それをなんか、はな、話したりとかして。

野瀬　そうですね。

鈴木　これだけなんか当事者がサポートに入るっていうのは、かなり珍しいなと思うんで

すけど、他のやっぱり事業所を見てみても、健常者が基本的にやってしまうところが多いと思うんですけど、やっぱりこう、当事者が、に役割をこう、担っていくっていうことって、野瀬さんとしては、やっぱり、どう、どう思います？　その、それについて。

野瀬　そうですね。同じ目線でしゃべったほうが、説得力もあるし、安心感も違うのかなというふうに僕は思い、思うから、ほとんど僕らが積極的にやっていったほうがいいのかなと思います。

鈴木　あ、ありがとうございます。はい、大体お話お伺いできました。ありがとうございました。なんか、すいません、長々と。こんなに長くなると思わなかったんで。

野瀬　フフ。

鈴木　フフフフフフ。ちょっとこれ切ります。

（了）